

2017年を迎えて

進化した社会イノベーション事業で、 IoT時代のイノベーションパートナーへ

平素より日立グループへ格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

「2017年 日立技術の展望」をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今日、世界各地で起こる社会情勢の変化や自然災害、紛争など、不測の事象が頻発しており、先を見通すことが困難な不確実性の時代を迎えています。

一方で、グローバル化の急速な進展に伴い多様化・複雑化する社会課題に対し、デジタル技術を活用した、新たなイノベーションを創出する取り組みが世界各地で広がっています。革新的なサービスの出現やIoT (Internet of Things) を活用した社会インフラの高度化は、世界中に、ビジネスや人々の暮らしを大きく変えるパラダイムシフトをもたらしています。

このような激動の時代に、変化を先取りし、スピーディかつスマートに新たな価値を創出していくためには、デジタル技術の活用と、組織や産業、地域などの枠を越えて人々の知見を結集させるオープンイノベーションが欠かせません。お客様やパートナーとともに、課題やビジョンを共有し、新たなイノベーションを起こす「協創」が鍵になると考えています。

日立は、これまでも、社会インフラ事業を通じて培ったOT (Operational Technology) と経営を支援する最先端のIT (Information Technology) を融合させた「社会イノベーション事業」により、デジタル化の潮流を先取りしてきました。

2016年春には、「IoT時代のイノベーションパートナー」となるべく、新たな中期経営計画を策定し、マーケット別にフロント機能を強化した事業体制を始動させるとともに、さまざまなデータやナレッジをつなぎ、協創を加速するIoTプラットフォーム「Lumada」の提供をスタートしています。

デジタル技術の活用で進化した社会イノベーション事業を通じて、世界中のステークホルダーとイノベーションを創造し、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上、そして社会の持続可能な発展に貢献してまいります。

本号では、最前線で活躍するキーパーソンの声を通じて、デジタル技術を活用したグローバルでの協創事例と、社会イノベーション事業の進化を支える最新の取り組みや技術を幅広く紹介しています。

IoT時代をリードし、より豊かな社会の実現をめざす日立グループの挑戦に、ぜひご期待ください。

日立製作所
執行役社長 兼 CEO

東原 敏昭

